

# 公立小学校・中学校の適正規模に 関する手引き(概要)

～少子化に対応した活力ある学校  
づくりに向けて～

平成27年3月20日(金)

第3回小学校・中学校望ましい教育環境整備検討委員会

# 学級数が少なくなることによるデメリット

- クラス替えができない
- クラス同士が切磋琢磨できない
- 習熟度別指導などがやりにくい
- 部活動の種類が限定される
- 行事や集団活動の制約、教育効果の低下
- 男女比の偏り、模範となる先輩の減少
- 体育や音楽等の学習活動の制約

# 教職員数が少なくなることによるデメリット

- バランスのとれた教職員配置が困難となる。
- 教員個人の力量への依存度が高まったり、多様な価値観に触れさせることが困難となる
- ティーム・ティーチング、習熟度別指導、等多様な指導方法をとることが困難となる
- 教職員一人当たりの校務負担が重くなる
- 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい

# 児童生徒に与える影響

- 社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- 協働的な学びの実現が困難となる
- 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある

# 望ましい学級数の考え方(小学校)

- **複式学級の解消**のために  
1学年1学級以上(6学級以上)
- **クラス替えを可能**にし、複数教員を配置するために  
1学年2学級以上(12学級以上)

# 望ましい学級数の考え方(中学校)

- **クラス替えを可能**にし、複数教員を配置するために

1学年2学級以上(6学級以上)

- 免許外指導を解消し、**全ての授業で教科担任が授業をする**ために

1学年3学級以上(9学級以上)

# 市町村の対応のめやす

小学校 学級数	中学校 学級数	市町村において考えられる対応	
1～5	1～2	教育上の課題が極めて大きく	<b>学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある。</b>
<b>6</b>	<b>3</b>	将来的に複式学級が発生する可能性も勘案し	
7～8	4～5	将来的に複式学級が発生する可能性が高ければ	6(3)学級の場合に準じて、速やかな検討が必要である。
9～1 1	6～8	教育上の課題を整理した上で、児童数予測等を加味して	今後の教育環境の在り方を検討する必要がある。
	9～11	教育上の課題が生じているかを確認した上で、生徒数予測等を加味して	

# 通学条件について

- 従来の規準

**「小学校 4km以内 中学校 6km以内」**

※徒歩・自転車での通学の基準としては引き続き維持

- 新たな時間によるめやすの提示

**「おおむね1時間以内」**

※スクールバス等の導入を踏まえて柔軟化



# 合意形成のポイント

- 児童生徒の保護者だけでなく、**地域住民らの理解や協力**を得ながら進めていくことが大切
- 学校小規模化のデメリットや将来的な児童生徒数の見込みなどの**情報を十分に提供する**ことが必要
- 関係者間で**統合による効果について共有する**ことが必要

# 統合による効果（児童生徒）

- 競い合いが生まれ、**向上心**が高まった
- **社会性やコミュニケーション能力**が高まった
- 学力や**学習意欲**が向上した
- 異年齢交流が増え、集団遊びが成立するようになった。
- 学校が楽しいと答える子供が増えた
- 進学に伴うギャップが緩和された。

# 統合による効果（指導面）

- **校内研修**が活性化した、教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった
- グループ学習が活性化した、**授業**で多様な意見を引き出せるようになった
- 施設設備が改善され、教材教具が充実した
- 校務の効率化、予算の効果的活用が進んだ
- 保護者同士の交流関係が広がり、PTA活動や地域との連携協働関係が強化された

# 魅力ある学校づくりの例

- 地域住民が学校運営に参加する「学校運営協議会制度」(コミュニティ・スクール)の導入
- 地域資源を活用したふるさと教育の充実
- 「小中一貫教育」の導入
- ICT(実物投影機、デジタル教材等)の導入
- 図書館や公民館、福祉施設、保育所などの施設との複合化

# スクールバス等の導入に伴う課題

- **体力低下**
- 放課後の時間や家庭学習**時間の減少**



- 校門から一定の距離でスクールバス等を乗降車させるなど、体を動かす時間を意識的に増やす。
- バス等の中で音声教材を活用するなど乗車時間の有効活用を図る。
- 授業終了から乗車までの時間に余裕を持たせ、放課後の時間を確保する

# 通学路の安全確保

- **通学距離が長くなる**ことに伴う安全確保



- 通学路の安全点検の定期的な実施
- ボランティアの養成・配置、警察等関係団体との連携等、登下校を地域で見守る体制の整備
- 危険予測回避能力を身につけさせるための教育の充実

# 児童生徒にとっての環境変化

- 児童生徒の学習や生活の環境が大きく変化することに伴う戸惑い



- 統合前の児童生徒やPTAの相互交流
- 教職員配置についての配慮
- 生徒指導の方針等の事前調整
- 不安や悩みの解消のための支援体制の整備

# 地域との関係の希薄化

- 通学区域の拡大や、一部の地域から学校がなくなることにより、地域との関係が**希薄化する懸念**



- コミュニティ・スクール等の導入
- 対象地区の教育資源の積極的な活用
- 対象地区の行事と連携した年間計画の作成
- 廃校後の校舎等を活用しての地域住民参画による体験活動・学習活動の実施



# 地域の拠点機能の継承

- 防災拠点、児童生徒の放課後・土曜日等の活動拠点や地域における文化・スポーツの活動拠点としての役割等の**拠点機能の喪失**



- 多様な機能をどのように地域社会において維持・発展させていけるのか等についての丁寧な議論
- 廃校施設等の活用についての総合教育会議等での議論

# 統合に伴う諸事務の計画的な実施

- 統合に際して発生する**膨大な事務**



- 必要となる事務をあらかじめ具体的にリストアップ
- 教育委員会と学校の間や学校内部の教職員間で適切な役割分担
- 教育委員会に統合準備の担当者を増強
- 統合対象校に検討委員会や専門の部会の設定

# 統合困難な事例

- 離島や山間部、豪雪地帯など、近隣の学校間の距離が遠すぎる場合
- 統合を行った後に、更なる児童生徒数の減少が見込まれる場合
- 同一市町村内に一つずつしか小・中学校がなく、かつ既に両校の併置が行われている場合
- 学校を当該地域コミュニティの中核的な施設と位置づけ、地域を挙げてその充実を図ることを希望する場合

# 小規模校のメリット

- きめ細かな指導が行いやすい
- 一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ICT機器等でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である
- 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい

# メリット最大化策

- ICTを効果的に活用し、基礎学力を全ての児童生徒に保障する
- 個別指導や補習等、学習内容定着のための十分な時間の確保
- 少人数でより効果を高めることが期待できる教育活動の充実（プレゼンテーション指導、音楽・美術等の実技指導）
- 児童・生徒会活動等で、全ての児童生徒に全ての役職を経験させる

# デメリット緩和策(社会性の涵養)

- 小中一貫教育の導入による集団規模の確保
- 山村留学・漁村留学等による児童生徒数や多様性の確保
- ICTを活用した他校との合同授業
- 幼稚園、公民館等の施設等と学校施設との複合化による、異年齢交流の機会拡大
- コミュニティ・スクールや学校支援地域本部の導入による地域人材の効果的な参画促進

# デメリット緩和策（切磋琢磨する態度）

- 過去の先輩の作品等、モデルの提示
- 各種検定やコンクールの積極的な推奨
- 他校の児童生徒の頑張っている姿を意識させる工夫
- 旅行的行事を活用した早期の進路選択肢の意識化
- 姉妹校との交流

# デメリット緩和策（環境面）

- 兼務発令により教科免許保有者による指導の確保
- 教員の巡回指導システム
- 教職員研修の合同実施
- 教材・教具の共同利用システムの構築
- 図書相互融通のシステムの構築